

2019年3月期 第2四半期 決算説明会 主なQ&A

(自然災害による影響)

Q. 自然災害の発生に伴う、新幹線と在来線の収益面、費用面の影響は。

A. 東海道新幹線については、幸いにして大きな影響を受けませんでした。一方、在来線では、平成30年7月豪雨により高山本線が被災し、現在も高山駅以北の一部が不通になっています。7月8日から8月10日まで、高山本線の特急「ひだ」が全区間で運休していたことなどの影響を受け、在来線の特急列車の上期実績が対前年で減となっています。なお、特急「ひだ」の運休に伴う減収の影響は、5億円程度と考えています。復旧費用については、まだ復旧作業中であることなどから第2四半期で決算計上される金額は些少ですが、通期では10億円程度の費用が発生すると考えています。ただし、当初計画の中に収まると考えていますので、費用の見通しについて見直しは行いませんでした。

(大規模改修工事の進捗)

Q. 新幹線の大規模改修工事の進捗は。

A. 第2四半期までの大規模改修工事に係る費用の支出状況としては、概ね計画通りに進捗していると考えています。修繕費分の進捗が若干少ないですが、これは上期、下期での竣工時期の期ズレによるものであり、通期では計画通りに落ち着くと考えています。

(中央新幹線計画の南アルプストンネル静岡工区の状況)

Q. 中央新幹線計画の南アルプストンネル静岡工区について、工事着工に向けた考えは。

A. 静岡工区を含む南アルプストンネルは、品川駅と名古屋駅の両ターミナルと並ぶ最も難易度の高い工事の一つであり、2027年の開業時期は、もともと余裕のない厳しい工程である、と常々申し上げてきました。山梨工区と長野工区では

既に着工して工事が進んでいる状況であり、静岡工区についてもできるだけ早く着手したいと考えています。今年に入り、静岡市とは、中央新幹線の建設と地域振興に関する基本合意書を締結するとともに、作業員の宿舎施設の建設を開始するなど、工事着手に向けた準備に取り組んでいます。静岡県には、原則として静岡県内に湧出するトンネル湧水の全量を大井川に流すと回答し、担当者間で県と協議しています。

以 上